黒埼町の今昔

町史編さん課

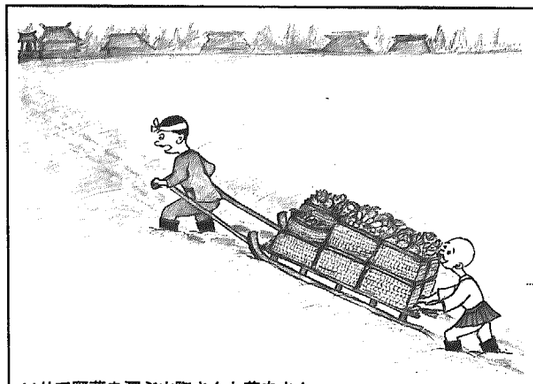
木場満行寺への学童疎開（五）

地元の人たちのさまざまなボランティア
活動が疎開児童たちの心と体を支えた。

前回、木場の婦人会が疎開児童たちにくず布団や食糧を贈ったことを記したが、ほかにもさまざまなひとたちが、疎開児童たちのために活動した。木場の下組女子青年団もタビや雑巾を縫ったそうである。ほかにも次のような活動をボランティアでやった人たちがいた。

◆食糧（野菜）調達の苦労

疎開児童たちのための野菜集めで、木場部落内からのは上・下・八割・新田の各婦人会がまとめて満行寺まで運んだ。黒埼全村からの野菜集めは、上組の故山際助太郎さん（家号・宇太郎、昭和五十三年没）がボランティアで専門的に作業に当たった。毎日のようにリヤカーを引き村内を回ったが、たいてい満行寺の役僧で、木場小学校の高等科に通っていた藤由正恵さんが、学校から帰るといつも助太郎さんのリヤカーの後押しについていった。



ソリで野菜を運ぶ山際さんと藤由さん

作業は、春から秋まではよかったが、冬は大変だった。今のように全町無雪道路の時代と違って、部落と部落の間は雪が積もれば積もりっぱなしで、春の雪消えまでほとんどそのままになっている所が多かった。それでリヤカーが使えず、木のソリを引いて回ったという。特に、疎開児童の来た終戦の前年（昭和十九年）から終戦の年（昭和二十年）にかけては大雪だった。各部落間の交通が途絶し、原っぱには一メートル以上も雪が積もった。吹雪になれば、完全に道がわからなくなって立往生することもよくあった。

所によっては、大勢の人が踏みしめて通って真ん中だけ固くなり、馬のドウゴウのような（馬の背中のように狭く安定感のない）雪道がある。そういったところでは、少しバランスをくずすと、ソリは野菜を満載したまま横に滑って転覆、積み荷の野菜が雪の中に散らばってしまう。散らばった野菜を探し出してソリに積みもどすときの冷たさに指が痛くなり、泣きたくなったのを、藤由さんは今もおぼえているという。

そのかわり冬でよかったのは、昔は田んぼにザイ（氷のこと）が張っていたため、遠い道を回らなくても、ザイの上を一直線にソリを引いて行けたことだという。

◆北沢医師のボランティア

疎開児童たちの健康管理に協力したのは、当時、大野諏訪町の役場前（現在は鈴木建具店）で開業していた医師・北沢義東氏だった。

北沢医師は、信州（長野県）の生まれで、大正末期に新潟医専を卒業すると、一時、黒鳥の阿部良斉方に身を寄せ、仮開業した。大野諏訪町で開業したのは昭和二、三年ころという。

北沢医師は、黒鳥にいたころから、オートバイ（当時村に数台しかなかった）を往診に使ったり、当時はまだ珍しがられていたカメラ（写真機と呼ばれていた）を持っていたりと、町でも知られた文化人だった。

北沢医師が満行寺の疎開児童たちと接するようになったのは、当時の住職と日ごろから昵懇（じっこん）の仲だったため、住職から疎開児童たちの健康管理について依頼を受けたことによる。

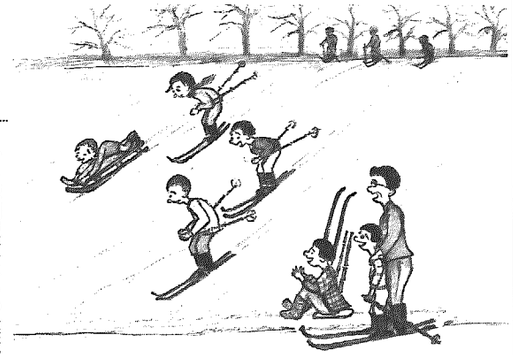
現在、満行寺には、昭和十九年、子供たちが東京から着いたばかりの時の写真や、内野浜へ行った時の写真など疎開児童たちの姿を記録した写真が何枚か残されている。これらは皆、子供たちと行を共にした北沢医師が撮影したものである。（それらの写真の一部は、1、3、4月号のこの欄で使用しました）

北沢医師の人柄を語る次のようなエピソードがある。

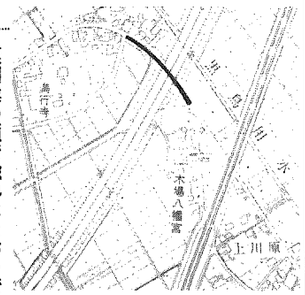
疎開児童たちが満行寺へ来た十九年冬から二十年の春にかけて、黒埼周辺が近来まれな大雪であったことは前の野菜調達の項で触れたとおりである。大雪による子供たちの運動不足の解消と、ふさぎがちな子供たちに元気を出させるために、北沢医師は子供たちにスキーをさせようと、役場に掛けあってスキーを買ってもらった（東京の親たちからスキーを買ってもらったものもあったようだ）。そして、たまたま自分の家の婿さんの中島さんが北海道の人で、スキーが上手だったことから、子供たちにスキーの手ほどきをさせることにした。

そして、山際八右ェ門のところから八幡宮にかけての道は昔の堤防でかなり高かったので、そこの斜面をスキー場がわりにして滑ったという。当時の子供たちの中でも、中島さんのスキーに乗せてもらったことをよく覚えていて、筆者への手紙にそのことを書き送ってくれた人もいる。

取材協力・藤由正恵さん、島津文子さん　執筆・宮田栄門



堤防の斜面をスキーですべる子供たち（下の地図は子供たちのすべった場所）



地域と町のパイプ役が集まり、要望や質疑を町へ――自治会長会議開かれる

四月十六日(月)、農村環境改善センターで自治会長会議が開かれました。町内の各自治会長と、町から町長・助役はじめ各課長・局長が出席。町が平成二年度の事業を説明したあと、自治会長からの質疑・意見・要望に答えました。

質疑応答の主な内容は次のとおり。

――近く河川敷に堤防が築かれると聞くがそれに附随して消火栓をつけられないか。

助役　河川式は国有地であり国県に聞いて対処したい。

――新潟市との合併についてどんな動きになっているか。

町長　検討委員会を二、三回開いたが、慎重論が出ているが、私の公約でもある。慎重な政治判断ということで、町長に一任された状態である。新潟市との対応では、百万都市構想をもとに事務局段階で検討させていただきたい。具体的にどうするかでは、まだ話し合いに入っていない。

――鳥原バス停駐車場の拡張がようやく実施段階に入ったが、用地買収はどこまで進んだか。竣工の時期は。

総務課長　用地についてはだいたい内諾を得ている。調整区域なので、今後は農振除外と収容委の許可をクリアしなければならない。場所は現駐車場の小平方側に広げる。工事は来年の三月ころになる見通し。

――町職員で名札をつけていないものがいるようだ。また臨時職員にも名札を。

総務課長　名札は規則で定められている。臨時職員についても若干小さい名札をつけさせている。

――物産館設置で現在の防犯灯では明るさが足りないのでは、との声があるが。

町長　ふるさと村に要望して趣旨に添いたい。

――寺地では病院が来年六月に完成予定、バスターミナルも建設され、西団地もある。新潟市道に歩道の設置を。

建設課長　町道鳥原寺地線には歩道を設置。市道については農地サイドでガードレールを要望している。

――配布物が多いようだが、広報を月二回を一回にまとめられないか。

総務課長　配布物は週一回という形でお願いしている。

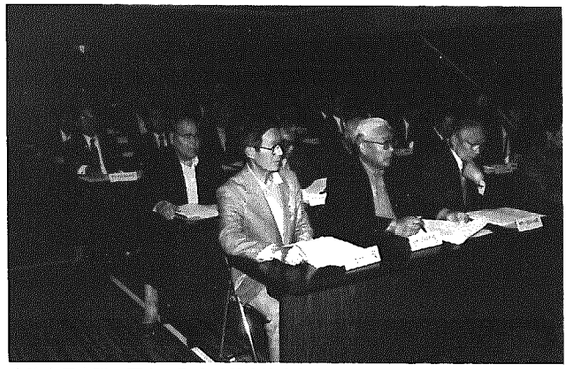
企画開発課長　広報は行政と住民の連絡を密にするには回数は多いほうがよい。しかし、省力化という点から月一回発行を検討したい。今年度は月二回発行で予算組んであるので、来年度以降に検討。

――農業用のビニールの回収を取りやめたようだが。

保健衛生課長　以前から収集しないのが原則なので、昨年からお願いした。郡内の他町村も収集していない。

――下水溝のフタが重く、清掃のさい持ち上げられない。一人で持ち上げられる機械購入に補助を。

総務課長　十分検討させていただきたい。



自治会長会議。現在、町内は60自治会がある

町の動き

町政のさまざまな動きをお知らせします。

短信　3月15日～4月15日

▼3月29日　新潟ふるさと村役員会（新潟市、町長出席）▶30日　広域市町村圏協議会総会（新潟市、町長出席）▶4月2日　町職員辞令交付式（役場議場）教員辞令交付式（総合体育館会議室、教育委員会）▶3日　定例課長会議（役場議場）交通安全推進委員辞令交付（農村環境改善センター）▶4日　社会福祉協議会総会（農村環境改善センター）西交通安全協会歓送迎会（新潟市内野、助役出席）▶5日　公衆衛生推進委員会総会（農村環境改善センター、助役出席）▶7日　菊花会総会（大野、町長出席）郷土芸能保存会総会（小平方公民館、町長出席）▶8日　母子福祉協議会総会（農村環境改善センター、町長出席）▶10日　保護司会新年会（大野、町長出席）▶11日　民協4月定例会（住民福祉課、役場議場）▶12日　ふるさと特産館工事安全祈願祭（山田、町長出席）保健委員会総会（農村環境改善センター、町長出席）▶13日　新潟日報社長披露パーティ（新潟市、町長出席）献血（保健衛生課、役場議場）

ふるさと特産館建設始まる

山田の運転免許試験場跡地では、すでに県のふるさとアピール館の工事が始められていますが、四月十二日からふるさと特産館建設の工事も始まりました。それに先立ち安全祈願祭が行われ、工事関係者、県、㈱新潟ふるさと村代表に町長らが出席、工事の安全を祈りました。

辞令交付式で町長あいさつ

四月二日(月)、役場議場で町職員の辞令交付式が行われました。辞令交付のあと、町長は年度初めにあたって、次のようにあいさつしました。

「思いやり・いたわりが人間社会の基本。効果的で喜ばれる、町民本意の行政を。いろんなかたの協力いただき、素晴らしい町を築きましょう」